



roundabout™

チュートリアル

ver. 1.0.3

2009/02/17

目次

第 1 章	はじめに.....	3
第 2 章	動作確認画面 (check.html)	3
2-1	動作確認画面にアクセスしてみましょう。.....	3
2-1	画像を見てみましょう。.....	4
2-1	ソースを見てみましょう。.....	5
(1)	変換シートによる置換処理(言語変換).....	5
(2)	外部CSSサポート.....	5
(3)	表示コントロール(PI)による出しわけ.....	6

第1章 はじめに

このチュートリアルではラウンドアバウト基本動作 3 つ「画像変換」、「言語変換」、「表示コントロール (PI)」を動作確認画面を参照しながら説明します。コンテンツは「/tutorial/」以下にあります。

第2章 動作確認画面 (check.html)

2-1 動作確認画面にアクセスしてみましょう。

ラウンドアバウトのインストールが完了したら動作確認画面(<http://yourhost/tutorial/check.html>)にアクセスしてみましょう。



左記のような画面が表示されます。

※グループ名はアクセスした端末によって異なります。

※左記の例はドコモの foma2.X に分類される端末でアクセスした例です。

※グループの分類については開発リファレンスを参照ください。

実はこの画面内でラウンドアバウトの主機能が既に利用されています。

2-2 画像を見てみましょう。

次に動作確認画面に表示されている画像を見てみましょう。画像は上部に表示されているロゴ画像と画面中央に表示されている画像の2つがあります。まず上部のロゴ画像(/tutorial/img/logo.gif)ですが、これは480x90で作成された画像1枚です。ラウンドアバウトではHTMLに特別な記述をすることなく、アクセス端末のブラウザ横幅より大きい画像は自動的にブラウザ横幅一杯のサイズに変換して表示をします。そのため、VGA用の画像を準備すれば、QVGA用画像の用意は必要ありません。



↓ 自動的に適正サイズに変換



次に画面中央の画像(/tutorial/img/pic01.jpg)ですが、これもロゴ画像と同様にVGAサイズで作成されています。



↓ 自動的に適正サイズに変換



※ 表示上240x100に画像変換されても、画像右下部の「Image Size 480x200」という表示はそのまま問題ありません。

PCからアクセスした場合、画像変換は行われずVGA用画像がそのまま表示されます。ラウンドアバウトはこれらの画像変換によって画像満載のページを表示することができます。

なお、ソースをよく見るとIMGタグの前後にコメントアウトがあるにもかかわらず表示されています。これは後で説明する表示コントロール(PI)がうまく動作しているからです。

2-3 ソースを見てみましょう。

/tutorial/check.html のソースを見てみるとほとんど普通の HTML であることがわかると思います。

それではドコモを例として変換前と変換後のソースを見ながら言語変換について説明します。

(1) 変換シートによる置換処理(言語変換)

ラウンドアバウトでは変換シートに記述したルールに従って言語変換を行っています。変換シートは縦軸でグループを分け、横軸で変換ルールを定義しています。グループの定義は terminfo.csv 内の Device-Group 列で定義されています。この変換シートを利用して check.html 内では文字列置換を行っています。

変換前: DEVICE_GROUP

変換後: foma2.x

変換ルールのほとんどがタグ変換ですが、変換シートは自由に編集することができるため文字列置換という方法でも利用することができます。以上のような変換はすべて conversion.csv の中で定義されています。絵文字変換については glyph-conversion.csv に定義されています。是非見てみてください。

(2) 外部CSSサポート

ドコモの FOMA 端末は CSS に対応していませんが、変換前のソースで class 指定されているタグに style 属性が追記されています。1 つ例として <div class="left"> があります。

変換前: <div class="left">

変換後: <div style="text-align:left">

ラウンドアバウトはアクセスした端末がドコモの FOMA 端末の場合、外部 CSS で指定されたスタイルを style 属性として追記しています。同じように他のタグにも style 属性が追記されています。

(3) 表示コントロール(PI)による出しわけ

ラウンドアバウトには端末固有機能を HTML だけで出しわけするための機能として表示コントロール(PI)があります。変換前のソースを見ると<?ra browser-width="210-399"?>というような記述があります。これが表示コントロール(PI)です。これは「アクセス端末のブラウザ幅が 210px~399px だった場合、この 1 行を有効にしますよ」という意味です。逆にそうでなければ、その 1 行を HTML から削除します。ブラウザ幅の指定以外にも開発リファレンスに指定可能な端末固有機能を記述してあります。詳細は開発リファレンスを参照ください。

変換前:<?ra browser-width="210-399"?>

<?ra browser-width="400-9999"?>

変換後:

画像変換の説明の中でコメントアウトがあるにも関わらず、画像が表示されていたのは表示コントロール(PI)がうまく動作していたからと説明しました。これは具体的には下記のようにラウンドアバウトが変換したからになります。

変換前: <?ra browser-width="1-2"?><p class="red">正確に動作していません。<!--

<p>

<?ra browser-width="1-2"?>-->

変換後:<p>

<?ra browser-width="1-2"?>は「ブラウザ幅が 1px～2px の場合に後に続く1行を有効にしますよ。」という意味です。また、表示コントロール(PI)が正しく動作していない場合も記述は消されないため有効になります。では正常に動作した場合は、どうなるでしょうか。

ブラウザ幅が 1px～2px の携帯端末は存在しないため、この1行が有効になることはありません。よって、有効でない記述は削除されるのでコメントアウト部分がHTML上から消えるわけです。残ったソースが変換後のソースとなります。

以上が roundabout の簡単な機能説明となります。tutorial フォルダ内の emoji から始まるHTMLは絵文字変換のサンプルです。また、動作確認画面以外にも/samples/以下にてサンプルコンテンツをいくつかご用意しています。別紙のサンプル解説書と共にサンプルの変換前と変換後のソースをご覧いただければ、より各機能を利用したサイト制作のイメージができます。